

国際緊急援助

一つでも多くの笑顔を取り戻すために

JICAの国際緊急援助体制

JICAは、海外で大規模な災害が発生した場合に、被災国政府または国際機関からの要請に基づき、緊急援助を実施しています。支援の形態には、国際緊急援助隊 (Japan Disaster Relief Team: JDR) の派遣と、緊急援助物資供与の2つがあります。

国際緊急援助隊には、救助チーム、医療チーム、感染症対策チーム、専門家チーム、自衛隊部隊の5種類の援助形態があります。国際緊急援助隊は被災国の要請に基づき、わが国の外務大臣が派遣を決定し、JICAが派遣の実務を担います。他方、緊急援助物資供与は、JICAが実施する活動です。

国際緊急援助隊事務局の業務

1. 国際緊急援助隊派遣

海外の被災地に対する緊急援助の実務を担うのが、JICAの国際緊急援助隊(JDR)事務局です。JDR事務局は、国際緊急援助隊の派遣が決定されると、隊員の選考、航空機の手配、携行資機材の選定など派遣の準備を行うほか、隊員が現地でも円滑に活動できるよう、JDR事務局員等を業務調整員として派遣します。

代表的なチーム派遣には、救助チーム、医療チーム、感染症対策チームがあります。

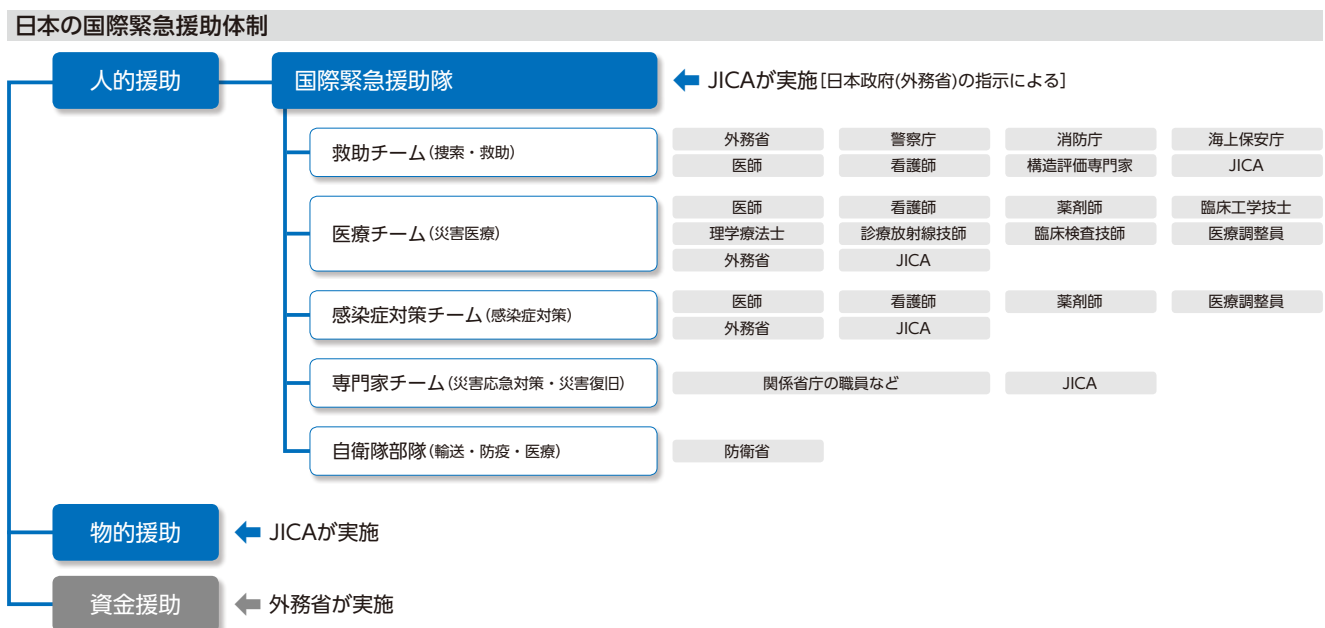
被災者の捜索・救助活動を実施する救助チームは、国際的な基準に基づいて世界中の救助チームの能力を評価する国際捜索救助諮問グループ(INSARAG)の外部評価において、最も高い能力を有する「ヘビー(重)」級チームとして認定されています。2017年9月に発生したメキシコ地震の際も救助チームが派遣され、夜を徹して捜索・救助活動を行いました。

医療チームは、被災国での医療支援を実施します。同チームは、2016年10月に世界保健機関(WHO)から、緊急医療チーム(Emergency Medical Team: EMT)としての国際認証を取得しました。また2017年2月には、JDR医療チームが主導した災害医療情報の標準化手法「Minimum Data Set: MDS」が国際標準としてWHOに採択され、2019年3月にモザンビークで発生したサイクロン被害に対する国際救援において、JDR専門家チームの支援の下、初めて運用されました。

感染症対策チームは、国際的な感染症の流行に対応するため、2015年10月に新設され、隊員募集や研修を実施してきました。2016年7月には、コンゴ民主共和国における黄熱の流行に対し、初の派遣を行いました。また、2018年6月には同国のエボラ出血熱流行に対し派遣を行いました【→ P.59事例を参照ください】。

2. 緊急援助物資供与

緊急援助物資を被災地へ迅速かつ確実に供与するため



2018年度緊急援助実績 (2018年4月～2019年3月 計15件)

No	支援時期	被災国・地域	災害区分	援助区分	派遣人数・供与物資
1	2018年 5月	ジブチ	サイクロン	物資供与	テント、毛布、ポリタンク、スリーピングパッド
2	6月	コンゴ民主共和国	エボラ出血熱	感染症対策チーム	14名
3	6月	グアテマラ	火山噴火	物資供与	テント、スリーピングパッド、発電機
4	7月	ラオス	水害	物資供与	テント、毛布、浄水器、凝集剤
5	8月	ミャンマー	洪水	物資供与	テント、簡易水槽
6	8月	コンゴ民主共和国	エボラ出血熱	物資供与	テント、ゴーグル、長靴、マスク
7	9月	コンゴ民主共和国	エボラ出血熱	物資供与(追加)	疫学・サーベイランス、検査診断分野資機材
8	10月	インドネシア	地震	自衛隊部隊	74名(C-130H輸送機 1機)
9	10月	インドネシア	地震	物資供与	テント、発電機、コードリール、浄水器、凝集剤
10	2019年 3月	マラウイ	洪水	物資供与	テント、毛布、プラスチックシート、スリーピングパッド
11	3月	アフガニスタン	洪水	物資供与	テント、毛布、プラスチックシート、ポリタンク
12	3月	モザンビーク	サイクロン	専門家チーム	2名
13	3月	モザンビーク	サイクロン	医療チーム	27名
14	3月	モザンビーク	サイクロン	物資供与	毛布、プラスチックシート、ポリタンク、浄水器、凝集剤
15	3月	ジンバブエ	サイクロン	物資供与	テント、プラスチックシート、ポリタンク、浄水器、凝集剤、発電機

に、JDR事務局は事前に物資を調達し、世界6カ所の倉庫に備蓄しています。2018年度は、火山噴火(グアテマラ)、地震(インドネシア)、洪水・水害(ラオス、ミャンマー、マラウイ、アフガニスタン)、エボラ出血熱(コンゴ民主共和国)、サイクロン(ジブチ、モザンビーク、ジンバブエ)など、さまざまな災害に対して、合計11回の物資供与を実施しました。

3. 平時からの応急対応への備え

いざ大規模災害が発生した際に迅速かつ的確な支援を実施するためには、平時の備えが重要です。チーム派遣に関しては年間を通じて種々の研修・訓練を実施し、隊

員候補者の能力強化を図っています。

国際連携に関しては国連人道問題調整事務所(UNOCHA)、WHOをはじめとした関係国際機関などとの連携強化を図っています。また、JICAの社会基盤・平和構築部が主導するASEAN災害医療連携強化(ARCH)プロジェクトを通じて、ASEAN地域における災害医療の連携体制の構築と能力強化に貢献しています。

近年、世界で発生する自然災害は規模、件数ともに拡大傾向にあり、災害多発国として経験の多い日本の国際緊急援助は重要度を増しています。JDR事務局では応急対応から復旧・復興に向けたシームレスな支援の展開に向け、他部門との連携を強化しています。

コンゴ民主共和国 エボラ出血熱の流行に対する国際緊急援助隊・感染症対策チーム派遣

首都キンシャサへの感染拡大防止に貢献



コンゴ川の検疫所における活動の様子

JICAは、コンゴ民主共和国でのエボラ出血熱の流行に対し、2018年5月29日に調査チームを派遣しました。調査の結果、感染者が確認されている赤道州から、コンゴ川を航行する船で人口1,300万人以上の首都キンシャサに人々が流入しているなか、感染拡大を防ぐ対策が不足しており、キンシャサで行うべき確定診断のための検査体制が十分ではないことが判明しました。

そのため、日本政府は計14名から成る国際緊急援助隊・感染症対策チームを6月11日から6月30日まで派遣し

ました。感染症対策チームは首都キンシャサで、検査診断への技術支援とサーベイランス支援(コンゴ川における検疫体制の強化、国内検疫官の指導支援、データマネジメント支援)を実施しました。

JICAは、コンゴ民主共和国に対し、2008年から保健分野に対する協力を一貫して行ってきています。2016年の黄熱流行の際も、検査診断やワクチン接種キャンペーンを支援するため、感染症対策チームを派遣しました。今回は同国への2度目の派遣です。